**多宝塔**

2階建ての多宝塔は、140段の階段を上がった若王子山の中腹にあり、永観堂の最高峰にある。多宝塔の軒下から、平安神宮と、亡くなった人々の霊を迎え送るお盆に点灯される大文字の送り火の2山の焼き跡を含む京都北部のパノラマビューが楽しめる。多宝塔は二階建てのように見えるが、二階部分は裳腰で純粋に装飾的なものである。

 多宝塔は、天台宗の主要な経典である法華経に記載されており、多くの天台宗寺院にはこの形式の塔がある。 法華経で説明されているように、釈迦牟尼が法華経を説き始めると、多くの宝石が飾られた佛塔（佛塔の前身）が地中から出現する。佛塔の中に座っている多宝如来は、釈迦牟尼に感銘を受け、一緒に座るように勧めている。 多宝塔は、真言宗の佛教寺院の多くでも見ることができ、真言宗の創始者空海（774–835）によって広められたと考えられている。 永観堂の多宝塔は、1928年に建てられた。塔の上部には、9つの環（相輪）があり、その先端には願いを叶える球体の宝珠がある。